

[参考事項]

成果情報名：水稲無落水移植栽培におけるイネミズゾウムシに対する育苗箱施用殺虫剤の防除効果

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担当者 高橋良知・藤井直哉・他2名

[要約]

水稲無落水移植栽培において、イネミズゾウムシを対象として殺虫剤を育苗箱施用すると、十分な防除効果が得られる。

[キーワード]

水稲・無落水移植栽培・イネミズゾウムシ・育苗箱施用殺虫剤

[普及対象範囲]

水稲無落水移植栽培導入地域

[ねらい]

近年、自動操舵による直進田植機を用いた水稲無落水移植栽培（以下、無落水移植）が行われている。本栽培では、湛水状態の移植作業となるため、移植直前に施用した殺虫剤が育苗箱から水中に流出する可能性があり、防除効果に与える影響についての検証が必要である。

本研究では、無落水移植におけるイネミズゾウムシに対する育苗箱施用殺虫剤の防除効果を調査した。

[成果の内容及び特徴]

- 1 イネミズゾウムシ成虫に対して、無落水移植時直前に育苗箱に殺虫剤を施用すると、落水移植時と同等の食害抑制効果が認められた（図1）。
- 2 根部に寄生する幼虫と土繭に対して、無落水移植時直前に育苗箱に殺虫剤を施用すると、落水移植時と比較して、2021年はやや低いが実用性のある効果が確認され、2022年は高い効果が認められた（図2）。
- 3 以上のことから、無落水移植におけるイネミズゾウムシに対する育苗箱施用殺虫剤の防除効果について、実用性が確認された。

[成果の活用上の留意点]

- 1 試験は湛水状態の影響を受けやすい条件として、製剤性状が細粒のイミダクロプリド・スピノサド・イソチアニル粒剤（商品名：ルーチンアドスピノ箱粒剤）を用い、移植直前に箱当たり50gを手散布した。また、薬剤施用後の苗に灌水は実施せず移植を行った。
- 2 5月下旬に1m×1m×0.35m高の枠を2か所設置し、場内で採集した成虫を20頭放虫した多発条件下で試験を行った。

[具体的なデータ等]

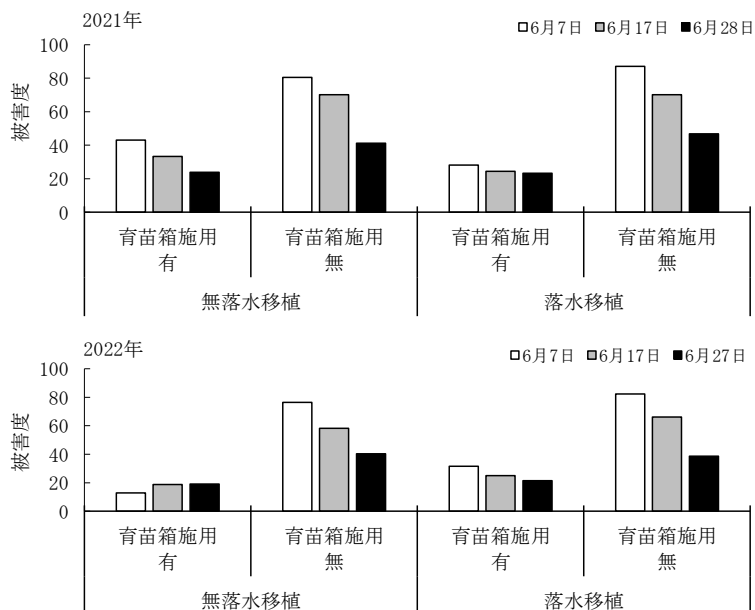


図1 被害度の推移

注) データは2地点の平均値

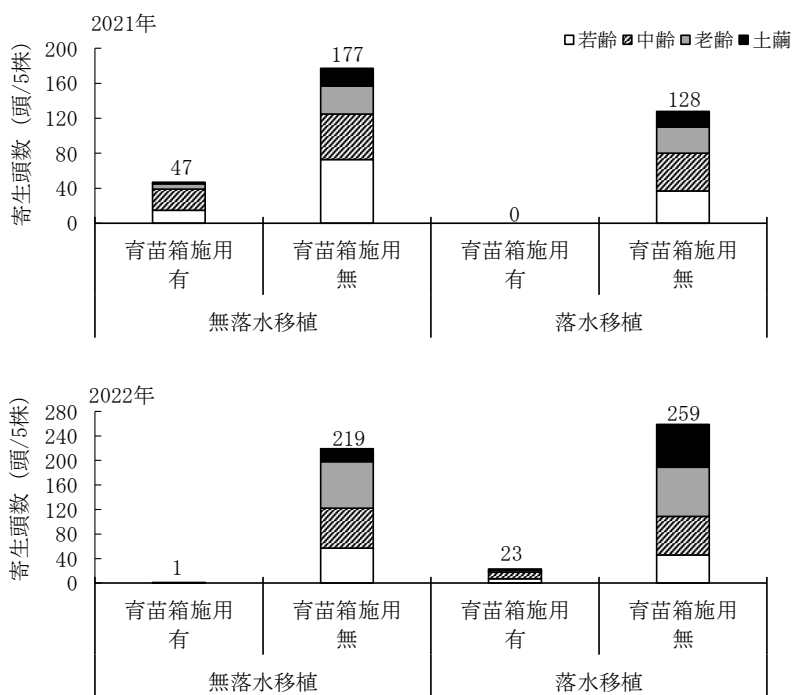


図2 根部寄生頭数

注1) 2カ年とも7月5日調査

注2) データは2地点の平均値

[その他]

研究課題名：実需に応じた秋田米生産を支える病害虫防除技術の確立

研究期間：令和3年度～令和4年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし